

令和5年5月25日
横浜市港湾局政策調整課
株式会社パワーエックス

横浜市と株式会社パワーエックスが 電気運搬船の利活用に向けて連携協定を締結

横浜市は株式会社パワーエックスと、電気運搬船及び蓄電池の利活用を通じた横浜港におけるカーボンニュートラルポートの形成に向けて、連携協定を締結しました。

我が国を代表する総合港湾である横浜港を擁する横浜市は、株式会社パワーエックス社が開発に取り組む「電気運搬船」を利活用した、次世代のエネルギーインフラの検討に取り組みます。

1 電気運搬船とは

電気運搬船は、船に搭載した蓄電池に蓄電し、電気を海上輸送するという世界初の送電手段です。我が国は2050年までにカーボンニュートラルの達成を目標に掲げ、洋上風力を中心に再生可能エネルギーの導入を促進しています。従来の火力電源とは異なり、再生可能エネルギーは、導入ポテンシャルが大きい供給元と電力の需要地が離れている場合が多く、その送電手段の強化が課題の一つとなっています。そこで、電気運搬船はこれらの課題の解決手段として可能性が期待されています。

横浜港は、埠頭における物流機能に加えて、京浜臨海部・根岸地区等における生産機能や都心臨海部における観光文化機能を持つなど、電力の大消費地となっています。この電力需要の一部を電気運搬船が運んできた再生可能エネルギーで賄うことで、横浜港のカーボンニュートラルポート形成と臨海部の脱炭素への取組に大きく貢献できます。

2 電気運搬船の特徴

現在の送電手段はケーブルが主流ですが、それらを補完するインフラとして電気運搬船の活用が可能です。電気運搬船は日常的にメンテナンスが可能で、複数の船で運用することで送電が途絶えることも無く、洋上風力発電と陸地、陸地と陸地どちらの送電も安定して運用できます。世界中で浮体式の洋上風力発電の開発が進む中、我が国の近海は水深が深く、海底面も複雑なため、設置場所に合わせた送電手段の確保が課題となっています。電気運搬船は水深や海底条件に関係なく送電が可能であるため、洋上風力発電の設置可能なエリアを飛躍的に拡大させることができ、日本だけでなく世界の洋上風力の普及に貢献できると期待されています。

3 協定の主な内容

- (1) 電気運搬船で再生可能エネルギーを海上輸送し、横浜市臨海部に立地する企業等による当該再生可能エネルギーの利活用を検討すること
- (2) 再生可能エネルギーの貯蔵・供給・利用を促進するため、蓄電池及び情報処理技術を活用したインフラ整備を検討すること
- (3) 新しい産業の創出や災害時の電力確保などの地域のレジリエンス向上に関する取組を検討すること

お問合せ先

(連携協定全般に関すること)

横浜市 港湾局政策調整課カーボンニュートラルポート担当課長 中村 仁 Tel 045-671-7279

(電気運搬船に関すること)

株式会社パワーエックス 社長室 コーポレートコミュニケーション担当 大津 虎太郎

pr@power-x.jp Tel 090-8509-6064

■株式会社パワーエックスについて

会社名	株式会社パワーエックス (PowerX, Inc.)
設立	2021年3月22日
代表	取締役兼代表執行役社長 CEO 伊藤 正裕
所在地	東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウンタワー43階
事業内容	大型蓄電池の製造・販売、EVチャージステーションのサービス展開、及び電気運搬船の開発・製造
URL	http://power-x.jp/

■電気運搬船のイメージ図

